

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 8月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0160590071
法人名	特別医療法人 恵和会
事業所名	アメニティ西岡水源池グループホーム
所在地	〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条13丁目7番20号 (電話) 011-(584)-0668

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年 7月27日	評価確定日	平成21年8月19日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 13人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1～	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円			
その他の経費(月額)	18,000 ～ 28,000 円			
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 有りの場合償却の有無 有 / 無			
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 1,060 円			

(4) 利用者の概要(7月 27日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	76歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特別医療法人恵和会西岡病院、医療法人仁友会日之出歯科真駒内診療所
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体組織の代表者は地域医療を担ってきた経験から、認知症高齢者の住み慣れた地域での安心した暮らしを願いグループホームを開設した。郊外の閑静な住宅地に新築され、明るく広々と開放感のある建物はバリアフリーとなっている。管理者を始め職員の多くは開設時より勤務し、理念である「なじみの環境、生きがいのある生活」の実践に取り組んでいる。地域のなかでその人らしく暮らし続ける地域密着型サービスの実現を目指し、地域住民と積極的に交流し双方向的関係が構築されている。管理者は職員育成を重要視し研修参加や資格取得を薦め、職員の資質向上を図っている。職員同士のコミュニケーションが良く、利用者も含めた事業所全体がゆったりと温かい雰囲気となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である、「職員の異動や離職を家族へ報告する」について改善に向けて取り組んではいるが、家族の納得のいく解決には至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成については、全職員で取り組んでいるが、各ユニットの評価は同じ文言・内容となり、総括されたものとなっている。自己評価はユニット毎の特色や状況を捉えて、其々に取り組まれることが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2カ月毎に開催し、事業所の運営状況の報告や各種テーマについての学習会など行っている。会議のメンバーからの意見・助言や要望などはスタッフ会議などで報告し、地域交流やサービスの質の向上に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎年、独自に家族アンケートを実施し、意見や要望などについて職員で話し合い、サービスに反映させる体制を作っている。家族の訪問が多く、家族とは常に話し合っており意見を言ってもらえる関係作りに取り組んでいる。苦情相談窓口を事業所内部・外部に設置し、契約書などにも明記し、口頭でも説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域との連携は特筆すべきものがある。設立当初より地域との良好な関係を構築し、町内会各種行事への参加・町内に向けたホーム便り・ボランティア受け入れなど、地域住民に理解や協力を求めるだけでなく、事業所として貢献出来る事にも取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に母体組織の理念を踏まえた事業所独自の理念「温かい笑顔でなじみの環境、自分らしく生きがいのある生活」をつくり、地域との交流に努めて実践されているが、理念の中やパンフレットに地域密着型サービスとしての文章化がされていない。	○	理念は事業所が目指す支援や役割を家族や地域の人々に伝え、又全ての職員が日々確認と共有を図り実践されることが求められる。地域との関連性を具体化した言葉で理念に盛り込むことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の勉強会や朝・夕のミーティングなどで、管理者・職員は理念を確認し、共有して実践に向けた話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立当初より地域との良好な関係を構築している。町内会の一員として、運動会・ごみ拾い・防災訓練などの行事への参加、月刊ホーム便りの発行、花火大会の開催や、読み聞かせ・紙芝居・大正琴・草取りなどのボランティア受け入れを行うなど、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義や活用方法を理解し、各職員の評価を合同ユニット会議などで検討して作成している。しかし各ユニットの自己評価は同じ文言・内容となり総括されたものとなっている。	○	各ユニットの利用者はそれぞれ個性があり、職員の対応の違いや利用者の暮らしぶりなど、評価が同じ内容とはなりにくい。自己評価はユニット毎に取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、運営状況の報告、認知症への理解や健康管理などのテーマ別の勉強会をするなど、理解や協力を得る為に働きかけている。会議での意見・助言や要望などはスタッフ会議などで報告して話し合い、地域住民との交流やサービスの質の向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当者とは事業所運営について助言をもらったり、キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を開催するなど、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活の様子は、写真や担当職員によるコメントなどを載せたホーム便りで、領収書などと共に毎月報告している。必要に応じてその都度電話での報告もしている。職員の異動や離職は報告されないため、利用者・家族の不安を招くこともある。	○	利用者・家族にとって馴染みになった職員の離職が、継続的なケアサービスを妨げる要因ともなり得るので、改善に向けた取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	独自の家族アンケートを年1回は実施して意見・要望を聞き、職員で話し合いサービス向上に活かしている。また、利用料の納入は事業所へ持参してもらうシステムとしているので、コミュニケーションのきっかけとなっている。さらに、苦情相談窓口を事業所内部・外部に設置し、契約書などにも明記され、口頭でも説明されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は開設時より勤務し離職者も僅か3名であり、利用者は馴染みの職員との安心した暮らしを送ることが出来ている。利用者の担当職員を決めて支援しているが、代わる場合に備えてユニット間の交流を心がけ、利用者のダメージへの対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員育成を重要視し、研修の年間計画を作成し内部・外部研修を受講する機会を設け、スキルアップ研修を業務として参加させるなど職員の資質向上に取り組んでいる。研修内容はミーティングなどで報告し情報の共有を図っている。毎月の学習会では各職員が課題を設けて発表するなど職員が日常的に学ぶ体制が出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区のケア連絡会や管理者会議に出席し、他施設のケアマネージャーとネットワークづくりを行うなど交流に努めている。職員は他施設の見学会に参加することもある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望にあたり、家族・利用者とは情報提供や希望などを十分に時間をかけて話し合い、見学や体験入居で事業所の雰囲気馴染めてもらってから利用開始に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添い、共感し合いながら暮らす大切さを理解している。経験豊かな人生の先輩として編み物・手芸や家事など教えてもらう場面も多く、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や家族の話から基本情報シートを作成して、本人の思いや興味のある事、好き・嫌いなどを把握し、日々の関わりの中での表情や行動からも汲み取れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員による記録を基に、ユニット会議やミーティングなどで気付きや状態の変化を話し合っって検討し、家族の意見も反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づいて支援し、モニタリングや介護記録の経過を確認して3カ月毎に見直しをしている。状態の変化が見られた場合はその都度の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況や要望に合わせて、個別の外出支援、通院介助、買い物、理・美容院への送迎など支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医受診を基本にし、協力医による月2回の訪問診療・訪問歯科を実施し、緊急時には24時間対応の体制もある。2名の看護師有資格者が職員として勤務しているので、日常の健康管理が安心なものとなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応マニュアルを作成し、契約時には利用者・家族や医師などと話し合っ方針を決めている。又利用者の終末期が他の利用者に及ぼす心理的な影響への配慮など、課題を検討し支援に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内に接遇委員会があり、研修を実施している。職員は人生の先輩として敬意をもって接しており、一人ひとりへの言葉かけにも配慮し、利用者の誇りを傷つけることの無い支援を実践している。個人情報保護に関して明文化し、記録などの管理も適正に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿い体調やペースも考慮して、外出・買い物・入浴などの支援をしている。一人ひとりが個性に合った過ごし方をしているのが伺えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は交代でメニュー係りを決め、季節感・行事・嗜好などを考慮した献立とし、体調や嚥下、持病などに配慮した個別対応も行っている。利用者は職員と共に食卓を囲み、会話をしながら和やかな雰囲気ですべての食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回は入浴する事とし、無理強いせず、曜日・時間に関係なく、利用者の体調を考慮しながら希望に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意な事や興味のある事を把握して、能力に応じて力を発揮してもらい、出番と楽しみのある日々となるように取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事表を作成し、ユニット別又は合同で季節の行楽行事・外食・ドライブ・お祭りなどの外出の機会を設けている。利用者の希望によって体調や天気を見ながら、毎日の散歩・買い物などにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は見守りを徹底することで、鍵は掛けない支援を実践しているが、利用者の安全の為にブザーを使用する場合もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署の指導で初期消火や避難誘導の訓練と、事業所職員による夜間想定訓練の年2回実施している。マニュアルと実際の状況の相違点などを検討し変更もしている。町内会の総会や推進会議のなかで地域への協力要請もしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事量を記録し、利用者一人ひとりの体調の変化などの特性を把握して支援している。カロリー計算はされていないが、看護師による栄養バランスチェックは出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の暮らしやすさを考慮し設計・新築され、明るく開放的で木造の温もりが家庭的である。各所にソファやベンチが置かれ、利用者が個々に寛いで過ごすことが出来る。鉢植えや季節感ある壁掛けなどのインテリアも、居心地良く落ち着いた設えとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具類やテレビ・日用品を持ち込み、家族の写真・壁掛け・鉢植え・趣味の品などを飾り、その人らしく自由に落ち着ける居室となっている。		

※  は、重点項目。